

# バンコクグリッチ

中里一日なかりかずひ

熱い排気

路上の瓦礫と臭気

官能的な花の香りがからかうように立ち現れては  
消える

古の芳香の女神たちが

バンコクの路上ではまだ

人と戯れようとする

スクラップ&ビルドが繰り返された

瓦礫のコーラージュの上で

踊る

呼吸し

混乱した匂いのグリッチを肺に満たせば

都市は腹に落ち

胃液で消化されていく

私の肉に

なる

暑さは思考を奪うかわり

五感を立ち上らせた

芳香と臭気、

熱気が

事実と幻想

都市と自らの肉を曖昧にし

現実の注視を

要求する

ショッピングモールでは

都市の熱気は

クリーンな金属とガラスの温度に取って代わられる

ver1.0で更新停止した vaper wave を

纏う

熱の残影に

広告モデルの人工的な微笑みがオーバーラップする

両者は油断ならない口元が

似通っている

唸り声が響く

メガストラクチャ達を路上と切り離す

エアコンデিশヨナーの咆哮だ

咆哮の中

人が車が、

情報たちが

路上から路上へ

端末に接続しながら忙しなく行き来する

都市のネットを辿り次の都市へ

臭気と芳香と熱気の中、

私という熱源は冷えた電車に

乗ってゆく

ここで感覚は思考の奴隷ではない

# チェンマイリゾート

中里一日

固定費ビジネスの成れ果てとしての  
メガストラクチャの  
廃墟

その中に暮らせば  
過去の夢の住人になれる

萎び、枯れかけたダチュラ、  
水の音、

見知らぬ犬と一緒に見あげた  
解像度の低い空

埃の廃墟にはライチの実  
草叢からわずかな幸福をかき集め  
凝縮させた甘露を  
含む

食む

この国にしては涼しい風が吹いた。

バスルームを白蟻が這う  
夜になるほど忙しく  
ここの解体を急ぐ

食べかけのライチには黒蟻が集り  
夢の残滓を吸い尽くす

天まで吹き抜けるロビーに  
置き去りのピアノ

披露宴会場への扉は  
暗闇へ続く

誰もいない回廊を  
ボーイがカートを引きながらぐるぐると巡り続ける

どこから来たかはすでに曖昧になっている

巨大なプールは

古い塩素で白く濁っている

そこに飛び込む

赤い水着の老いた観光客が

# ドッグ・デイズ

中里一日

コンクリートの蟻塚が乱立している  
道は物理ネットとして

インターネットとの共存の道を選んだようだ

人と車、

最新の車のスキンを纏った情報たちが

その上を行き交うと

アスファルトにログが染みついてゆく

繰り返す日々に

蓄積する疲労も

将来への不安も

引きで見ればただのデータ

未定義の税金として集められ

いづれ

悪趣味なプロジェクションマッピングにでも変わる

巨大なディスプレイでは

政治家が笑う

ガード下は

デフラグされても尿臭が漂う

ホームレスの住居がこびりつく

端末を見ながら

あるいは

イヤホンを耳に詰め

通り過ぎる

臭うニッチメゾンのフレグランス

排気と吐瀉物の歓楽街も

観光客がSNSにアップロードする画像の中では  
どれもサイバーパンクの表層を纏う

キャッチを振り切って

蝶が飛ぶ

道を乗り越えて。

緑は見当たらないが

大丈夫か